

科目名	宗教学	科目分類	□ 専門科目群 ■ 総合科目群		
			全学科	□ 必修 ■ 選択	
			学科	□ 必修 □ 選択	
英文表記	Religious studies	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年		
ふりがな	こいけ たかのり	開講期間	□ 前期 □ 後期 □ 通年 ■ 集中		
担当者名	小池 孝範	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
授業のテーマ	宗教の歴史的意味、宗教の諸類型等をふまえながら、私たちの生活と宗教とのかかわりについて検討し、宗教のもつ意義や意味について、多面的・多角的に検討する。				
到達目標	①社会における宗教の役割について、世界観や構成要素をふまえて理解する。 ②代表的な宗教について、その特徴や基本的教義について理解し、説明することができる。 ③宗教と人間とのかかわりについて理解し、宗教の意義と役割を批判的に検討できる。 ④宗教学の基本的立場及び宗教の基本的方法論について理解する。				
授業概要	この授業では、現代の宗教的態度を再確認・再発見し、宗教とは何か、また宗教のもつ意味や役割について考えていきたいと思えます。その際、宗教学の基本的立場や見方をふまえながら、批判的に検討する視点をもつこと授業は講義と演習の形式で行ないます。				
授業計画					
第1回	オリエンテーション——現代日本人の宗教心				
第2回	宗教とは何か——宗教心と信仰心				
第3回	宗教を学ぶとは——宗教学の立場と見方				
第4回	宗教の諸類型（1）——有神教的宗教と無神教的宗教				
第5回	宗教の諸類型（2）——民族宗教と世界宗教				
第6回	宗教の構成要素——教義・儀礼・教団・体験				
第7回	宗教的世界観（1）——他界観・来世観				
第8回	宗教的世界観（2）——空間論・時間論				
第9回	ユダヤ教の基本的な考え方				
第10回	キリスト教の基本的な考え方				
第11回	イスラム教の基本的な考え方				
第12回	仏教の基本的な考え方（1）——インドの仏教				
第13回	仏教の基本的な考え方（2）——中国・日本の仏教				
第14回	神道の基本的な考え方				
第15回	まとめ——結局、宗教とは何だったのか				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 新聞、インターネット等での宗教に関する記事やトピックに関心を持ち、私たちの生活と宗教の関係について情報を集めておいてください（1時間程度）。 2. 授業（第9回～第14回）のなかで、関心を持った宗教についての発表をしてもらいます。そのための準備の時間が必要です（2～3時間程度）。				
履修条件	集中講義として開講します。1日の欠席で出席回数規定に満たなくなります。				
参考文献・資料	脇本平也（1997）『宗教学入門』講談社学術文庫				
成績評価の方法	授業内での発表（30%）、小レポート（20%）、最終試験（50%） ※出席回数規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)				
実務経験及び実務を活かした授業内容	高等学校で、国語の講師（8年間）を務めた経験を活かし、理解することだけでなく、伝えること、教えることを意識できる授業としたいと思います。				
学生へのメッセージ	教員免許状取得のために必要となる科目です。教員免許状の取得を目指す受講者は、教えるということ意識しながら受講して下さい。				